

## 令和7年度第2回千葉県文化芸術推進懇談会 開催結果

- 1 日 時 令和8年3月6日（金）午後2時から4時10分まで
- 2 場 所 ホテルプラザ菜の花4階 楨
- 3 出席委員（委員総数11名中7名出席）（50音順）  
草加座長、石橋副座長、垣内委員、小林委員、こまちだ委員、齋藤委員、佐々木委員
- 4 会議次第
  - 1 開 会
  - 2 挨 拶
  - 3 議 事
    - （1）令和8年度主な文化芸術振興事業について
    - （2）その他

### 5 議事概要

#### （1）令和8年度主な文化芸術振興事業について

事務局から資料1により令和8年度主な文化振興事業について説明。

委員からの質問・意見等は以下のとおり。

#### <質問・意見等>

##### 【委員】

新規事業の縄文貝塚発信プロジェクト事業について。

この中で国指定史跡の縄文貝塚を有する各市等との実行委員会を設置とあるが、県内のどこの市なのか。史跡の名称等も含めて説明していただきたい。

縄文時代も生活においてSDGsを意識していた。例えば、狩りや採集では自分たちが食べる分しか取らない、毛皮や骨等も含めて有効活用していた。だからこそ、数千年にわたって縄文の人たちが活躍したと思う。

そういった視点からも、先人たちからのメッセージとして学ぶべきものがあると思うので、良い取組であると思う。

千葉市の加曽利貝塚は平成29年に特別史跡に指定されている。令和12年度には、加曽利貝塚新博物館が現博物館の近隣に開館予定。特定の市町村だけという形ではなく、縄文貝塚を通して県内に興味を持ってもらうという視点が大事であると思うので質問をした。

##### 【千葉県（文化財課）】

実行委員会のメンバーは、特別史跡である加曽利貝塚を初めとして千葉市の

月ノ木貝塚、荒屋敷貝塚、犢橋貝塚、野田市の山崎貝塚、袖ヶ浦市の山野貝塚など全部で 14 の縄文貝塚と関連する史跡を有する千葉市、市川市、船橋市、佐倉市、香取市、野田市、袖ヶ浦市及び国指定史跡を目指している余山貝塚を持つ銚子市と加曽利貝塚博物館、松戸市博物館、市原歴史博物館、及び国立歴史民俗博物館、県文化財課になる。

仰るとおり、縄文時代はSDGs という視点もあるし、出土した貝イボキサゴの出汁を用いた食文化の視点もある。これらの点も含め関連市町村や博物館の皆さんと連携して事業を進めていきたいと考えている。

#### 【委員】

博物館の話もあったが、加曽利貝塚新博物館を計画する時に、縄文文化で県内の博物館の輪を広げたいと思い、協力をお願いに行ったことがある。そういった意味でも、県の方で主体的に取り組んで、県内の繋がりが深まるような形になるようお願いをしたいと思う。

#### 【委員】

魅力的な事業をされるということで大変うれしく思う。

その上で3点お尋ねしたい。

1点目として、施策の柱1では施策の展開⑤に文化施設等の機能の充実、多面的な活用がある。

予算の中ではかなりの部分を文化施設に充当しているのではないかと思うので、この辺り機能の充実と、多面的な活用という点について、どういう展開を考えているのか。具体の事業や、資料に記載のある事業の中でも関わるようなものがあれば教えていただきたい。

実は、先ほど懇談会の前に千葉県立文化会館を拝見した。

素敵なところで施設内も良いが、今日は何も公演がないようで、せっかくの空間に誰もいなくて、周辺の駐車場も閑散としていたのが少しもったいないなと思った。こういう施設は繁忙期とそうではない時期で差がある場所ではあるが、地域とイベントをすとか、学生の授業の一環で使っていただくとか、少しでも平準化できるような取組があると思うので、どういったことを考えているのかお尋ねしたい。

2点目は、新県立図書館等複合施設整備事業について、良い取り組みだと思うが、どういう形で具体化されるのか。

「知の拠点」ということで、外側のハードの面だけではなく、図書検索システムなどのソフト面を含め相当ブラッシュアップしていくことが必要と感じた。どんな感じになるのかというところを教えていただきたい。

3点目は発酵を活用した千葉の魅力発信事業について。これはとても大事な事業なのではないかと思っているが、昨年よりも予算がかなり減っている。

食文化でもあり発酵文化でもあり、ユネスコ無形文化遺産に和食や伝統的酒造りが登録される一方で、国際的なマーケットも拡大しているように思う。

各地の重要伝統的建造物保存地区には大体酒屋と醤油屋と味噌蔵があり、そこで話を聞いてみると、天然醸造や手づくりのものはコストや価格が高く、日本のマーケットだけでは沈んでしまうこともあるが、海外の需要が非常に強いため生産が継続できている例もあるようだ。

例えばチョコレートを作るショコラティエやスイーツを作るパティシエの方が風味づけに醤油を使うなどといったこともあるそうで、そういったものは何年か先ぐらいまで予約が入っていると聞いた。

このように、醤油や味噌等を扱う小さな個人商店でも海外展開をしているということもあるので、千葉のブランドとしてサポートされるのも良いのではないか。マーケットが広がるという意味では人口が減っていく日本だけではないところを狙っていくのもありなのかなと思った。

「ちばの醤油グルメフェア」など、観光コンテンツや誘客、屋外、県内外イベント等も記載されているが、具体的にどんなことを考えてらっしゃるのか、差し支えないところで教えていただきたい。

#### 【事務局】文化振興課

1点目の文化会館や、美術館、博物館等の多面的な活用についてお答えする。今日千葉県立文化会館に行っていたいただいたとのこと。仰るように人がいないというのは非常にもったいないと思っている。

千葉県立文化会館は大高正人の設計した建物であるが、実は隣接する県立中央図書館も同じ大高の設計である。老朽化していることから、他の場所に新設することで進んでいるところ。他にも千葉みなとにある県立美術館も実は同じ設計者であることから、県としてはそういったところも含めて魅力を伝えていきたいと思っている。

県立文化会館の3館では、公演のない日でも訪れてもらえるよう展示等にも取り組んでいる。障害者芸術文化活動支援事業で毎年開催している展覧会での受賞作品をレプリカにして巡回展示を実施しているが、その巡回先に文化会館を入れているなどしている。

千葉県文化会館についても、なるべく人に通ってもらいたいという大高の思想が設計に反映されており、公演の有無に関わらず訪れて通り抜けてもらえるよう、西側エントランスから東側エントランスにかけて遊歩道のようなイメージでタイルが敷いてあったりする。

西側エントランスを通り抜けた先に千葉大の医学部があるため、学生が通ることもある。また、会館内にカフェを新設し、公演のない時でも営業をしているので多くの方に利用いただきたいと考えている。

県立美術館についても、千葉ポートパークという大きな公園が隣接しているこ

とから、エリア一帯で回遊性を持たせるような取組について検討をしているところ。

もう1つ事例を申し上げますと、昨年、県立美術館でナイトミュージアムコンサートを実施した。君津市ゆかりの松本ピアノを使用し、県出身のピアニスト角野未来さんによるコンサートで、取組としてはまだまだだというところもあるとは思いますが、引き続き工夫しながら取り組んでいきたいと考えている。

#### 【千葉県（生涯学習課）】

新県立図書館等複合施設整備事業についてお答えする。

現在の県立図書館3館体制を見直し、新しい県立図書館に資料と人的資産を集約することで、業務の効率化を図りながらサービスを向上させ、知の創造と循環を生み出す活動拠点となることを目指している。

利用者同士がお互いに交流し合ったり、新たな知を生み出すような施設となるように、博物館や文書館等との連携企画による展示が行えるスペースであったり、調査研究活動を行うための個室であったり、グループ活動用のスペースであったり、3Dプリンター等を利用できるメーカースペース等を予定している。

1人で本を読んで終わりというだけではなくて、交流したり創造したりできるような場としていきたいと考えている。

これまでの図書館の利用方法に加え、新たな活用ができるよう幅を出していきたいと考えている。

文書館との複合施設であること、また近くに博物館もあることから、展示や取組を紹介し合うなど、各施設と連携した事業を行って参りたい。

建設予定地が青葉の森公園であり、公園利用者が各施設を周遊して、利用していただく、そのような施設を作っていきたいと考えている。

#### 【委員】

今ある図書館と文書館は残して青葉の森公園に新設するとのこと。誘客動線はどう考えているか。青葉の森公園は駅から徒歩15分程度と離れているし、バスも本数が少ない印象。利用者は車で来ることを想定している施設になるのか。

また、現図書館は今後どうなるのか。バーチャルで統合した新しい拠点を青葉の森公園に作り、今の文書館と図書館は分館的な形で継続するのか。

大高氏の建築で良い建物だと思うので、少し気になっている。

#### 【千葉県（生涯学習課）】

今ある図書館について、西部図書館と東部図書館については、地元市に移譲する方向で協議を進めている。

中央図書館に関しては、どのようにしていくのかは今後検討していくことになる。

新施設の利用の動線について、施設に必要な駐車場の台数は確保しつつ、バスの本数についてもバス会社等の交通機関と協議を進めていければと考えている。

#### 【千葉県（政策企画課）】

発酵の取組について、今年度と比べて予算が下がっているという御意見があった。これについては構造的な問題があり、1つは今年度、大阪・関西万博に出展したため、今年度は予算が大きかったところがある。

もう1つは予算の括りの問題になるが、来年度大きく事業実施するものとして、政策企画課、販売輸出戦略課、観光政策課の3つの事業を掲載している。県としては発酵の取り組みはこの3課だけではなく、各課の事業の中で様々な形でPRを実施し全庁的に進めていこうと考えている。

予算の中ではそういった細々としたものは掲載していないので、見える形としては下がっているように見えるが、県としては万博を起点に引き続き頑張りたいと考えている。

その上で発酵県ちばプロモーション事業の御説明になるが、現在、事業者による企画提案方式でアイデアを募っているところである。どういったものやろうかと検討しているところとしては、1つは発酵グルメフェスイベント、千葉県ならではの発酵グルメを集めた、おいしいものが食べられるようなイベントの開催。他には発酵に関連する観光コンテンツの把握や掘り起こしについて、県内には様々な酒蔵などの発酵に関する施設等があるが、まだ把握できていない施設等や、インバウンド観光客にどういった観点で刺さるのかななどを、この機会に把握してその結果を全庁的に生かしていきたいと思っている。

また、県内外イベントへのブース出展についても、例えば文化振興課の県民の日中央行事に出展するなど、県内外色々なところでイベントがあるので出展していきたいと考えている。

#### 【千葉県（販売輸出戦略課）】

料理を通じた県産農林水産物の魅力発信事業について御説明する。

県内の飲食店で「ちばの醤油グルメ」がお楽しみいただける「ちばの醤油グルメフェア」を今年度に引き続き実施するということと、醤油といえば銚子市と野田市が特産地として知られているため、この2市にフォーカスし、自治体や企業等と連携して醤油グルメに関するイベント等を実施するというような形で考えている。

#### 【千葉県（観光政策課）】

期間限定アンテナショップにおける発酵食品のPRについて御説明する。

今年度は大阪・関西万博の期間に合わせて、大阪の阪急梅田駅で県産品のアンテナショップを出店して販売等を行った。非常に多くの方に御来場いただき、千

葉県の発酵を初めとする県産品の認知度向上や販売促進が図れたものと考えている。

来年度については、引き続きアンテナショップを出店したいと考えている。効果的な販売促進等が図れるよう内容等を検討したい。

#### 【委員】

DMO（観光地域づくり法人）等との連携は予定しているのか。

事例として、和菓子屋の「とらや」と六本木DMOが連携し、会議で六本木に来る方々に和菓子体験の機会を提供するとか、オルタナティブスペースでのイベントやミーティングの誘致をするというようことがあるようだ。

DMOの存在感も強くなってきたかと思うがその辺りはいかがか。

#### 【千葉県（観光政策課）】

千葉県では千葉県観光物産協会と連携して、県内の観光物産振興を図っている。その中で国内外の方々に受けるような県産品・物産等も含めて、様々な機会を通じて、利用であったり、認知度向上など図っているところ。

#### 【委員】

食文化は何となく訴求力があって良いなと思う。頭からではなく胃から伝わっていく感じがするので、認知度が高くなるのではないかと思うので、ぜひ頑張っていたきたい。

#### 【委員】

質問というよりは意見のような感じになってしまうが、発酵文化について。

県で発酵文化をPRしていることについて、広く県民の方に知られているのか疑問に思っている。例えば黒アヒージョのイワシの缶詰、凄く美味しいと思っているが、県内のスーパーに行ってもまず見かけない。

会社の都合や流通の問題もあるので何とも言えないが、売っているところをまず知らないということもあるので、県民が日ごろ良く使われる一般的なスーパーで取り扱ってもらおうとか、そういうところから裾野を広げていくような活動をされていくといいのではないかなと思った。

通年では難しいとしても、期間限定で仕入れてもらおうとか、或いはフェアをやってみるなど。

自分が良く行く県内のスーパーでは残念ながら県産品をあまり置いていないという実感も含めて、住民対象のPR的な部分を実施して欲しい。

黒アヒージョでは県内レストランに御協力いただいているようではあるが、そういうところには日常的には行かないと思う。スーパーなどの日常的にいくようなフィールドに発酵や黒アヒージョ等の情報提供をする機会を定期的に作る

と県民の認知は広がっていくのではないかと思います。

【委員】

食文化でいうと、ユネスコ食文化創造都市というのがあって、山形県鶴岡市や、大分県臼杵市が認定されている。

ユネスコに食文化都市として名乗りを上げていくという攻め方もあるかもしれない。

鶴岡市に良く行くが、土地の人は普段食べている水もお米も美味しくて価値があるということに案外気が付いていなかったりする。独自の食文化や発酵文化があるということや、それが自分たちの町の価値になるということに気が付いていないということもあるので、対外的な訴求を進めていくのも必要であるとは思いますが、県内で発酵文化は千葉の文化だということを訴求させていくというのも重要なのではないかと、今の話を聞いていて思った。

ぜひ、プライドを持って、プライドになるような施策を展開していただければと思う。

【委員】

図書館に関連して参考までにお話しさせていただく。

北海道の障害者芸術文化活動支援センターを担っている社会福祉法人ゆうゆうは、苫小牧市の東開文化交流サロンも指定管理で運営されていた。

県立図書館と比べると規模は小さいとは思いますが、展示スペースや、講演会をするスペース、調理室など人が交流するスペースも作られている。障害のある方の作品も常に展示されている。

福祉の相談施設も併設されていたり、カフェがあったり、様々な方が利用しやすいようになっている。カフェでは障害のある方が仕事をされている。

子どもを連れてお母さんが相談に来るとか、高齢者の方や、孤立している方が図書館に寄って、話を聞いてもらうということもあり、「知の拠点」とはまた少し違うのかもしれないが、本が人と交流を呼び、それが福祉に繋がっていく。それが暮らしやすくなる、住みやすくなるきっかけの1つになるかと思う。参考事例として非常に良いのではないかと考えている。

もう1つ、発酵食品について。香取市にある社会福祉法人福祉楽団では、「恋する豚研究所」というブランド豚肉を扱う精肉場兼レストランを運営している。

そこでは東京農業大学と研究をして、普通の餌と発酵した餌との違いを確認したところ、発酵した餌を食べた豚の方が旨味成分が多かったというデータが出ていることから、餌を発酵させて豚に与えている。

間接的ではあるが、やはりこれは発酵しやすい千葉県だからこそできることだと思う。農福連携というところと、豚にもおいしい餌を与えることで私たちも美味しいものをいただけるという、そういった要素があるのかなと考えている。

参考までにお伝えする。

**【委員】**

人が食べるだけの発酵食品ではなくて、豚を育てる発酵食品、生活を改善する発酵など、色々な発酵があるのだなと思った。

そういうものを広げていく、発見していくというのもとても重要なのではないかな。

**【委員】**

新県立図書館等複合施設整備事業について、おそらくこの予算は、新しい施設を作るという予算ではないかと思うが、高校などの学校図書館では本がなかなか入ってこないため非常に苦しい思いをしている。

報道によると大学生ですら 1 ヶ月の本の購入費用はもうほとんど出してないという状況で、本離れは進んでいる。

しかし知識の中心地として図書館は非常に重要な位置を占めていると思う。

施設を作る上で一番大事なのは、いかにソフトウェアの部分を使いやすくするかということ。そこが重要なポイントだと思っている。

例えば今、学校に本がなければ県立図書館にリクエストを出して送ってもらうとか、電子書籍のサービスなどやっており、学校の方でもそれを積極的に取り入れるようにしている。

先ほども話があったとおり、新しい図書館の場所が非常に駅から遠い、車がなければ行けないのではないかなというような声がある。交通手段が少ない方々にとっても使いやすい図書館になってもらいたいという気持ちもある。

また、西部図書館などは地元へ委譲する方向だという話を聞いたが、やはり県の図書館としての役割、教育の面でも非常に大きなポイントになる部分もあるので、新設や移譲の後県民の方々にどうやって図書館のサービスをしていくかというところをよく考えていただきたいと思う。

**【委員】**

アーティスト・フォローアップ事業や軽音ちば事業について。

軽音楽やロックなど若い人たちの趣味に充てるような事業を県域などの大きな財団で実施しているのは珍しいと思う。

そういった部分で、概要やジャンルなど御紹介いただければ。

**【事務局】 文化振興課**

アーティスト・フォローアップ事業は、これから芽が出るタイミングの若手アーティストを伴走型で支援するという事業で、ギャラリストや芸術家、音楽家、振付家など、第一線で活躍しているようなプロの方から支援相談を受けられるこ

とや、活動制作費として 50 万円の助成を受けられるというところを特徴としている。分野は美術（平面・立体）、デザイン、軽音楽、コンテンポラリーダンスの 4 分野がある。

今年度で第 3 期の募集まで終わっているが、期を重ねるごとに面白いものが集まってきている。県としては、これを蓄積していきながら発信していくことで若いアーティストに飛び立ってってもらいたいと思っている。

また、バンドの支援ということで、高等学校軽音楽コンテストとして、高校生のバンドオーディションを青葉の森公園芸術文化ホールで実施した。

また、「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」関連事業として、県内の若者から ROCK IN JAPAN FESTIVAL のオープニングアクトとして出演できるオーディションを開催し、高校生 1 組を含めた全 4 組が選ばれて、ステージに立つことができた。

委員が仰ったように、あまり行政で実施していないようなところについても目を向けて、文化芸術の裾野を広げていきたい。昨年度末に策定した第 2 次千葉県文化芸術推進基本計画でも言及しており、積極的に実施しているところである。

## (2) その他について

事務局から令和 8 年度に関する芸術祭について報告し、委員から質問・意見があった。

### <報告概要>

#### 【事務局】

本県で開催する芸術祭は、地域の自然環境や資源を生かし、アートを通じて地域の新たな魅力を発見していただくための取組である。

都市部では体験できないようなことを、自然豊かな千葉で体験していただくことで、県内外の皆様にも足を運んでいただき地域全体が元気になるような波及効果につなげていきたいと考えている。

芸術祭は、県内 2 つの地域で令和 9 年の 3 月から 5 月にかけて開催予定。

房総国際芸術祭は、令和 9 年 3 月 6 日から 5 月 30 日まで、市原市、木更津市、大多喜町を舞台に開催する。地域が持つ自然や歴史、文化、食、これらの資源をアートとかけ合わせ、五感で体感できるアート作品を展開していく。

東京湾沿いの里海から住宅地、里山、歴史ある町並みまで、地域の多様な魅力を感じていただきたいと考えている。

また、こちらの方では地域の皆様にも作品制作や会場運営に参加いただくことで、改めて自分の住んでいるところの良さを発見していただき、地域への誇りや愛着を深めていただくことを目指している。

こうした芸術祭の運営や、地域との協働を支える仕組みとして、サポーターを募集している。サポーターは学生や社会人、外国人など、様々な立場の方がアート作品の制作補助や、会場整備、お越しになった方へのおもてなしなどを通して、ア

ティストと地域、作品と来場者をつなぐ芸術祭の中心的な存在になる。

3月8日にはサポーターキックオフミーティングを開催する。芸術祭の紹介や、芸術祭の総合ディレクターである北川フラム氏の講話、瀬戸内国際芸術祭でのボランティア経験者の体験談、ワークショップなどを行う予定。

また、プレイベントとして、芸術祭の雰囲気味わえる作品鑑賞会なども開催予定。

もう1つの芸術祭は、成田市、印西市、栄町が連携して実施するもので、先月の実行委員会の総会で名称が「空・水・空（そら・みず・くう）芸術祭」に決まった。

こちらの会期は令和9年3月20日から5月23日の予定となっている。

空・水・空という名前について、空（そら）というのが、日本代表する空の玄関である成田国際空港、水（みず）が干拓や開発を通じて地域に深く関わっている印旛沼と利根川。空（くう）は、大乘仏教の思想を表す用語で、1000年以上の歴史を有する成田山新勝寺をイメージしている。

会場候補は成田山新勝寺の表参道や、公津の杜コミュニティーセンター、旧宗像小学校、印旛沼の周辺、房総のむら、ドラムの里周辺を予定している。

2つの芸術祭は開催時期が重なっているが、来年度圏央道が全線開通することもあり、アクセスも大きく向上する。

この2つの芸術祭が圏央道によってつながり、成田空港はもちろん羽田空港とアクアラインにつながるので、インバウンド需要の獲得が見込まれる。

今後様々な機会を活用して、国内外で積極的な広報を行いながら開催に向けて機運醸成を図っていきたいと考えている。

随時情報提供させていただくので、来年3月に始まる芸術祭についてぜひ楽しみにお待ちいただければと思う。

## <質問・意見等>

### 【委員】

房総国際芸術祭について、リーフレットに開催地の地図が載っているが、真ん中の色が抜けている。色が抜けているところは入っていないのか。

### 【事務局】

今回芸術祭を開催するにあたり県内市町村に意向を確認したところ、今回開催する3市町から手が挙がってきた。

### 【委員】

芸術祭のタイトルの中に「房総」がついているということは、開催ごとに場所がどんどん移っていくことになるのか。

それとも、この2市1町での名称なのか。

**【事務局】**

トリエンナーレという形で、3年に一回の開催を予定している。

開催ごとに場所が移っていくということではなく、開催場所が増えていくことは可能性としてはあるかもしれない。

**【委員】**

房総半島であるから、どこへ行っても名称は統一して開催すれば良いと思ったが、他の場所でも開催があるかもしれないということか。

**【委員】**

芸術祭の予算について、県の予算が8,800万円となっているが、県の負担だけでなく地元も予算を負担するのか。

千葉県誕生150周年記念事業の時は県が補助金を出しており、色々な自治体が参加されたと記憶しているが、そういう形はもう継続しないのか。

もう1点、岡山県岡山市の芸術祭「岡山芸術文化交流」に行ったことがあるが、そこでは無料で鑑賞できるということであった。芸術祭はお金がかかる取組であるが、県と市町村との役割分担と、どういう期待でこういう形になっているのかということをお尋ねしたい。

**【事務局】**

千葉県誕生150周年記念事業の際は、各市町村が主催で県がそれに補助金を出すという形をとっていた。

今回は多様な連携ということで、市町村同士が連携するというところに県も参画して、実行委員会を組織し芸術祭を開催する形であり、県の方でも負担金という形で支出をしている。

房総国際芸術祭の方はパスポートが、大人料金で前売りは3,000円、会期中だと3,500円で販売する。

房総国際芸術祭の参加団体である市原市では、いちほらアート×ミックスという芸術祭を長年やっていた実績もあり、既に認知されている取組に県や木更津市、大多喜町が入って実施していく。また、今回2つ芸術祭があるので、県としてはこの2つの芸術祭を積極的にPRして行って、認知を高めていきたいと考えている。

**【委員】**

各市町はどれくらい負担されるのか。

**【事務局】**

芸術祭の事業規模によって県の負担金も違ってくる。房総国際芸術祭の方は3億円以上ということで、1市町村当たり県の方から3,000万円を負担金として支援する予定で、県の方としては、9,000万円負担する。各市町は、合計で2億1,300万円負担するが、負担金の割合については、市町の規模によって異なる。

空・水・空芸術祭については、房総国際芸術祭と比べると規模が小さく、県は4,500万円負担する。

やはりアート作品を作っていたただくのにお金がかかるので、全てを自治体が負担してしまうと、取組を継続していくことが難しい。

長く続けるためにはパスポートという形で芸術祭に訪れる方に費用を負担いただくことや、他にも企業からの協賛金等も集めて回っている。それから自治体が負担をする。そういったスキームで考えているところ。

#### 【委員】

二重価格制を取り入れて、インバウンド客は二倍の価格にするとか、18歳以下や子供は割引にするとか、そういったことは考えているか。

#### 【事務局】

パスポートの価格の区分は年齢で区切っており、19歳以上は大人料金、16歳から18歳は中人料金、15歳以下は小人料金と3段階で区分している。

今回、会期が年度を跨いでいる関係で高校生だとか中学生等の表記ではなく、年齢で区切った。

二重価格については、今回の芸術祭では考えていない。

#### 【委員】

新潟県の大地の芸術祭は会期が長いため、中には会期終了後に撤去されてしまう作品もあるようだが、会期中ずっと作品が置かれて、また芸術祭が継続することで作品が増えてきているので年間の観光先にもなりはじめている。ああいう連続性は良いと思う。

岡山県は、残念ながら多くの作品が消えていっている。現代アートの中でも、あまり永続的に残っている作品というのではない。

岡山県では、岡山芸術交流と、森の芸術祭の2つの芸術祭がある。

岡山芸術交流は、構成団体として入っている石川文化振興財団が多くの資金を出しているようで、それと岡山市の予算とでまわしていたかと思う。昨年が4回目の開催だった。

#### 【委員】

横浜でも、トリエンナーレとして現代アートの芸術祭をやっているが、会期が終わった時点で、展示作品を収蔵するという事は難しいようだ。また、コンセ

プチュアルアートの場合は、コンセプトだけ引き継ぎ、作品自体は廃棄になることもあり、作品を作るところだけではなく色々なところにお金がかかると聞いた。

お金はかかるが、芸術祭は良い取組だと思うので、次につながるように取り組んでいただきたい。

#### 【委員】

最近の現代アートでは、映像作品が多くなってきている。映像作品は時間の拘束力が多くなるので、鑑賞者に嫌がられることもある。

現代アートは瞬間的なインパクトがあると、それだけで驚愕みになることがある。岡山の芸術交流も最初は映像の方が多かったが、訴求力がある作品をということで変わり始めていると聞いている。

残る作品があると思えば、一過性で消えるお金ではないということも言えるので、ぜひ末永く続けていただきたい。

#### 【事務局】

市町村との連携や、海外に目を向けるということ、地域住民をどう取り込んでいくのかといった様々な御意見を頂戴した。

美術館も文化会館も含めて外に開いていこうという思いはあるが、自分たちがどう見えているのか気づきにくいところがあるので、様々な観点から御意見をいただけて有難く思う。

引き続き誰もが文化芸術に親しめる千葉を目指して計画を着実に進めていきたいと考えているので、御支援をお願いしたい。